

社会医学系専門医制度(JBPHSM) Z E N H O 通信(No. 24)

令和5年11月28日発行
全国保健所長会

今年度の日本公衆衛生学会と全国保健所長総会が無事終了しました。来年度は札幌で開催されるため、北海道保健所長会として、総会の準備を開始したところです。会場は「かでの2.7」(「かでの」とは、「仲間に加える」という意味の北海道の方言です。)で、道庁の南西に100mほどにある建物で、道路を挟んで西隣に北大植物園があります。北海道の10月下旬は紅葉も終盤で美しい時期ですが、寒くなり雪が降るか微妙な時期なので、荷物になるかもしれませんが、コートが必要かなと思っています。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

さて、No24では、北海道、九州、東北の指導医講習会の報告をいたします。東北ブロックでは、「各県の専攻医確保の状況などについて意見交換を行いたい」ということで、各県の取り組み状況について意見交換していますが、福島県は県立医大ということもあり、社会医学系講座が3つもあるなど、対策が充実しているということでした。

11月10日には厚労省が主催した「公衆衛生医師確保・育成に関するワークショップ」が東京で開催されました。参加自治体からは基本的に医師と事務方が参加し、講義を聴いた後、グループワークをしました。公衆衛生医師の確保には各自自治体苦勞されているようでしたが、会計年度職員制度の活用や、医育大学への業務委託などの取り組みについて意見交換されていました。育成については、社会医学系専門医のプログラムで研修してもらうという手段がありますので、この制度を大いに活用して欲しいと思っています。とても面白いワークショップでしたので、来年度開催されるようでしたら、是非参加されたら良いと思います。

来年1月22日の全国保健所長研修会での指導医講習会では、公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業の分担事業者である香川県東讃保健所の横山 勝教所長から、育成に関する調査及び実践事業について、話していただく予定です。どう育成したら良いか悩んでいる方には是非聞いていただきたいと思っています。

ブロック別指導医講習会の実施報告

1. 北海道ブロック：令和5年8月29日開催

(講師・記録：山本長史 北海道江別保健所長兼千歳保健所長)

北海道にしては残暑厳しい8月終わりに北海道ブロックの保健所連携推進会議が開催され、合わせて「社会医学系専門医協会指導医講習会(北海道ブロック)」がハイブリッドで開催されました。

北海道ブロックでは、指導医が専攻医を指導するということがあまりなかったため、指導医と言っても具体的にどのようなことをするのか、分からないのではないかと考えていたところ、今年1月に全国保健所長会研修で行った指導医講習会で、山形県の阿彦先生と鈴木先生から、指導医と専攻医の具体的な活動についてのお話を聞くことが出来ました。北海道の保健所長にも指導医の具体的なイメージを持ってもらうために、講習会のビデオを見てもらうことにしました。

私も改めて見ましたが、鈴木先生からは、専門医研修の流れについて、ROADMAPやGANTT CHARTに例えての説明があり、図示化され理解しやすい説明でした。研修については、「PDCAサイクルを回そう」ということで、業務予定表と復命書を書くことにより、各課題などのレポート作成の下書きになったということで指導に生かせると思いました。3年目はコロナ禍に翻弄されながら、ICTを駆使して

WEB 会議などを利用して研修を進めたということでしたので、指導医と専攻医の勤務場所が離れていても研修が出来ることが分かりました。研修を終えての振り返りでは、臨床研修との相似性を話されていて、「一つのプロジェクトを任される」＝「主治医を務める」、「研修手帳」＝「退院時症例要約や手術記録」ではないかと話されていて、初期研修を受けた専攻医にとり、理解しやすいのではないかと思います。専攻医試験でのグループディスカッションでは、「産業・環境」分野の専攻医との交流があり、良い経験になったようなので、普段の研修から他分野の専攻医との交流なども企画しても良いのかなと思いました。

次いで指導医の立場から、阿彦先生のビデオを見てもらいました。指導医からのフィードバックとしては、専攻医が提出した研修計画について副分野から主分野への移動や、業務の追加をしています。また、課題を経験させるために事業を追加しています。研修手帳の記入については、研修プログラム統括責任者連絡会議での配付資料からの資料の紹介がありました。改めて、お二人の講演を聞いて、専門医研修とはこのように進めると言うことが良く分かり理解できました。ビデオの使用について快く了承していただいた阿彦先生、鈴木先生、ありがとうございました。

北海道にも若い医師が入職してきているので、今後北海道で大いに活躍してもらうために、社会医学系専攻医に登録してもらい、研修を通じて必要な能力を身につけてもらいたいと思っています。

2. 九州ブロック：令和5年9月7日開催

(講師・記録：藤田利枝 長崎県県央保健所長兼壱岐保健所長)

九州保健所長会では、九州ブロック保健所連携推進会議に合わせて開催しました。ハイブリッド形式でしたが、会場を使つての開催は4年ぶりでもあり、顔をあわせることの大切さを再確認する機会となりました。

指導医講習会の参加者は会員32名、会員外2名の計34名(会場13名、オンライン21名)でした。社会医学系専門医協会作成の資料に基づき説明を行いました。そのなかでも特に、講習会は専門医のコア・コンピテンシーを再認識する良い機会となること、時々コア・コンピテンシーを思い起こしていただきたいことは、皆さんの耳に残るように繰り返しお伝えしました。また、全国の各研修プログラムからの報告によると、研修にメリットを感じないとの理由から研修を中断してしまう専攻医も少なくないことから、指導医面談での意見交換やプログラム委員会での研修内容等についての検討を通じて、ドロップアウトを防いでいただきたいことをお願いしました。研修プログラム委員会の開催ができていないプログラムも見受けられるため、コロナ対応も落ち着いてきた今年度は、専攻医がいる場合には必ず開催していただくことを強くお願いいたしました。

研修医手帳については、記録はまとめてではなく随時しておくこと、指導医は定期的にその内容を確認し必要な指導をすること、指導医のコメントも重要なので適切に記載することなどを改めてお願いしました。なお、今後、研修医手帳はエクセル形式での記載からWeb登録となることが検討されていることから、リアルタイムに記載しやすくなるのは専攻医・指導医双方にとっても良いと思います。

本講習会が、各自自治体における指導医の悩みや苦勞、副分野に関する工夫などを共有できる機会となり、より良い研修プログラムの一助になれば幸いです。最後に、ご参加いただいた皆さま、開催にご協力いただいた皆さまにお礼をお伝えして報告といたします。

3. 東北ブロック：令和5年9月15日開催

(講師・記録：山田敬子 山形県置賜保健所長)

東北ブロック保健所長会総会、保健所連携推進会議に合わせて「社会医学系専門医協会指導医講習会(東北ブロック)」が仙台市で開催されました。会場参加は12名、リモート9名の計21名のハイブリ

ッド開催でしたが、久々に各県の皆さまと顔を合わせ活発な意見交換を行いました。

今回は昨年度に引き続き2度目の担当でしたが、事前に東北地区保健所長会会長に就任される予定の宮城県塩釜保健所長・西條尚男先生から「各県の専攻医確保の状況などについて意見交換を行いたい」とのご希望を寄せていただいたので、ディスカッションの時間を十分確保するよう心掛けました。具体的な内容は「社会医学系専門医制度とは?」「研修の概要」「専門医研修の流れ」「更新について」「東北6県の状況」の5つとし、制度の説明については全国の登録状況や変更点を中心に、スライド52枚を45分程度でコンパクトにまとめお伝えしました。

さて、肝腎の専攻医の確保状況に関してですが、4名が在籍している福島県を除けば、各県1名ずつ（青森県はゼロ）という危機的な状況を共有しました。一方、福島県では県立医大ということもあり、連携プログラムの充実や社会医学系講座が大学に3つもあるだけでなく、県が委託している健康増進センターに専攻医が勤務できるなど、ポストと合わせて行政医師の確保に関して県が手厚く対応されていました。裏を返すと、他の5県は地元大学の関連講座と県側の連携が薄く、決して若くない&限られた行政医師が、兼務であったりする中で必死に新型コロナ対応など危機管理に向き合っている状況が浮き彫りとなり、それぞれの参加者が課題について意見を述べ合いました。

最後になりますが、内田勝彦 全国保健所長会会長には、はるばる大分県から駆け付けていただき課題山積の東北ブロックへ熱いエールを送っていただきましたこと、また、細やかな配慮で支えてくださいました西條尚男 東北地区保健所長会会長、並びに貴重な機会を与えてくださいました北海道江別保健所兼千歳保健所長 山本長史先生に心から感謝を申し上げます。

発行責任者：山本長史（公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会委員長）